

平成26年度 明石市地域自立支援協議会

くらし部会 リポート Vol. 5 平成27年3月

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局
 (基幹相談支援センター) TEL：078-918-5252

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

みなさま、こんにちは。くらし部会のワーキンググループ④「短期入所の在り方検討会」を担当している、にじの空の山崎です。今までの経過をお知らせしたいと思います。

そもそも、このワーキングの立ち上げのきっかけは、セーフティーネットであるべき、入所施設や、短期入所事業を運営する事業所が、緊急を要する利用者の方（両親の病気や死別、他にも家庭では療育困難な方）がおられても、定期的な利用や、区分等の問題で、正式に入所出来ない方の居住の場所としての長期滞在などがあり、本来の意味でのショートステイとしての利用が困難な現状が問題になっていたからです。

我々ワーキンググループは話し合いの場を持ち、侃々諤々し、様々な意見を出しました。

通所作業所の夜間帯は空いている状況を利用し、期限付きではあるが夜間を支援できないか、昨今問題となっている、空き家を有効利用できないかなど、様々な意見が出ましたが、人員的な問題、法律的な問題など、様々な制約の中で実行することが困難であると判断せざるを得ず、一旦ここで話が暗礁に乗り上げてしまいました。

しかし、我々は、社会資源として何が足りていないか、現在の状況で何が出来るのかという発想に切り替えることにしました。結論としては、「障害のある方が住む場所がないのだ」という結論に至りました。

そこで、短期入所と云った限られた枠組みではなく、仮称を「すまいの会」とし、安心して暮らせる場をどのように保障していくのかを、考えることになりました。

まだ、この「すまい」という場を具体的にどのようなもので、充当させていくのかは決まっていませんが、グループホームなどが一番現実味のある社会資源ではないかと云う意見もあり、今後活動はそちらへシフトしてゆくことになると思います。

衣・食・住は人間が生きる上で欠かせないものです。このワーキングは、その一端を模索するもので、テーマは重く感じています。また、社会福祉事業者のみが膝を突き合わせて話を進めたところで、場当たりの、凡庸な結論になってしまうかもしれません。ですから、尚の事、自立支援協議会という公的な場で、出来るだけ多くの人たちに、問題の重要性を理解していただき、社会の問題、引いては個人の問題として理解していただき、行政、社会を巻き込んだ問題として議論していけたらと考えています。

みなさまの温かいご支援を期待しております。

和気あいあいと話し合ってます！

